国民投票前のロンドン・現地レポート

6 月 23 日に予定されている、イギリスの EU 離脱の是非を問う国民投票が注目されています。今回は、最も盛り上がりを見せそうな、投票日の直前の週末にロンドンを訪問してみました。

運動はどこでやっている？

しかし現地では、EU 残留支持の議員が殺害された事件が起こったこともあるのか、ほとんど全く、何もやっていない、という状況でした。

「自粛している」とは言え、のぼり一つ立っておらず、運動の痕跡さえ、ほとんど見かけません。世界有数の観光地・大都会、として通常営業、といったところです。

議会前や、トラファルガー広場などで、キャンペーンが待ち構えているような「絵」を想像していましたが、そういうことも全くありません。

トラファルガー広場では、土日まるまるの日程で、音楽ライブの特設ステージ

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A. info@euro-aa.com
記載の内容は十分注意を払っておりますが、内容の確実性を保証するものではありません。内容の一部または全部を無断転載することを禁じます。転載等をご希望の場合は事前に弊社まで電子メールにてご連絡をお願い致します。

が組まれていました。スポンサーは、クレジットカードの Master Card です。

議会前では、殺害された議員の献花台があり、一定の人垣がありましたが、観光地の中の 1 ブースという風情で、ほとんど関心を引いていない、と言えるほど。

大きな書店も 2 ～ 3 店覗いてみましたが、「離脱すべきか、残留すべきか」の特設コーナーは、驚くほど小さく、目立たず、申し訳程度の取り扱いでした。

うち 1 店では、通り側のディスプレイでは大きく LGBT の書籍をキャンペーンしていました。

「リアル」では、全く盛り上がりに欠けている状況

テムズ川の川辺の公園で、ようやく残留派のビラまきに遭遇。

大勢の人が行き交う中、パラパラ 4～5 名ほどで、日本の街頭のティッシュ配りの風情です。どこかのテレビのカメラクルーが 1 組、1 人の運動家にインタビューして、映像を撮っていました。

後で、ニュースでも「運動再開」の映像をやっていましたが、どれも映像の背景が非常に薄く、大勢の人が集まって盛り上がっている絵は、ほとんどありません。

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

もしかしたら、「自粛する前から」そうだったのでは？、盛り上がっていたのは、政治家と市場関係者、テレビやネットのマスコミ報道だけだったのでは？、という疑念すら持ってしまいました。

おそらく他の幾つかのニュースの事案と同様で、今日の、嗜好が細分化していて、生活が忙しい都市部では、「リアル」の世界で特別な何かが起こる、というのは、なかなか難しくなってきているのでしょう。

仕方がないのでシティに行ってみた

この空気感とリンクするのは、「シティ」と呼ばれる、金融ビジネスエリアの風景です。

この地区は、古来からの独特の行政制度を持っている、特別なエリアとして知られています。19 世紀以来、イギリスのバンカーたちが集い、ニューヨークのウォール街と共に世界経済を先導してきました。

ロンドンの他のエリアでは、大英帝国の時代の伝統ある優雅な建物、または、英国病の時代の少し薄暗い雰囲気、の重厚な街並みが、現在でも広がっています。

しかしそれが、この「シティ」に入ると、突然、東京やシンガポールのような、テカテカのグローバルな都心エリア、の雰囲気に一変します。

昔の建物は、ピカピカで小綺麗な、時にガラス張りであったりするイマドキのオフィスビルに次々改装されています。

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

■シティの風景

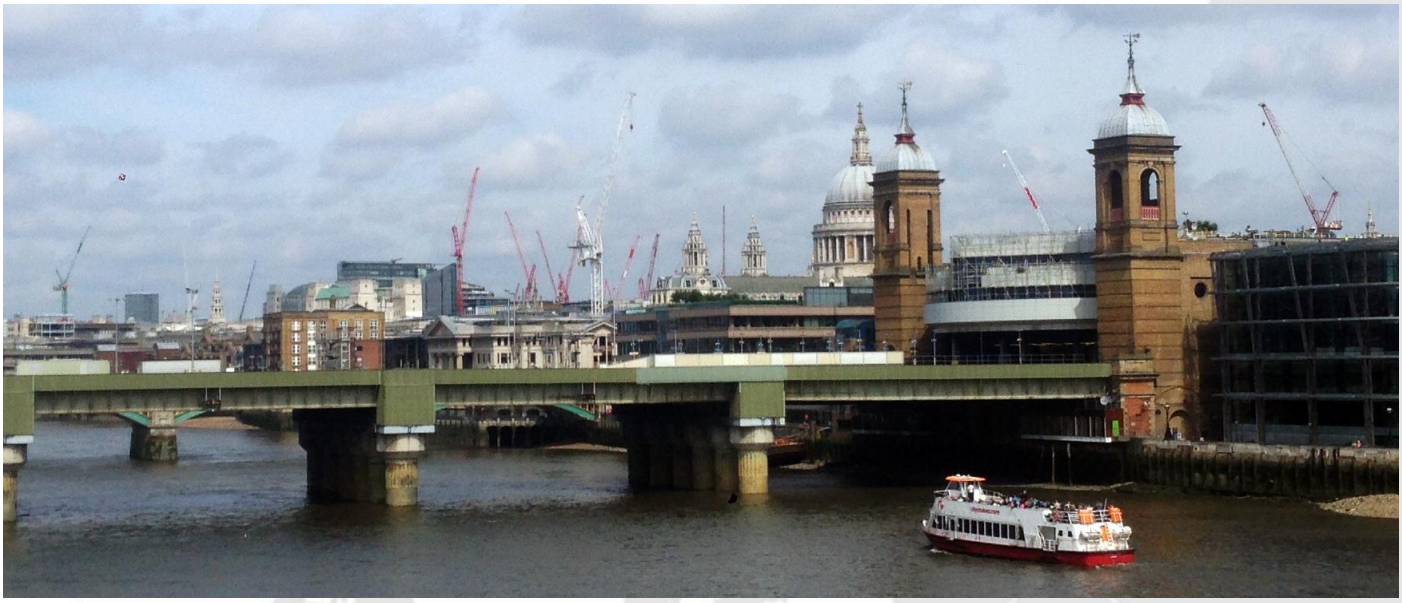
■その他の、伝統的なロンドンのエリア

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

「シティ」周辺で進む再開発の波

近未来的な高層ビルが建つロンドン中心部の風景は、映像や写真などで、すでに広く知られていますが、現在も、「それでは全く足りない」と言うかのように、盛大に「再開発」をやっています。

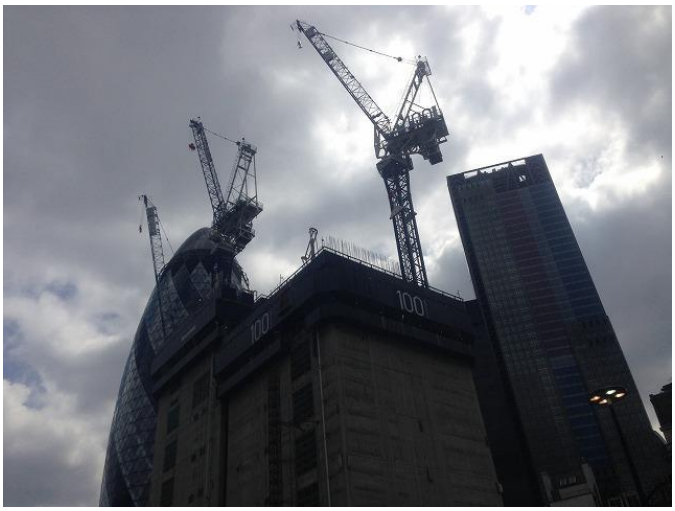
もちろん、アジアや中東などでサラ地から開発するのと比べると、規模のインパクトは劣りますが、ヨーロッパの都市としては、節操が無い、と言って良いレベルです。



©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

テムズ川の対岸からシティ方面を見ると、さほど広くないエリアに、ビル建設用のクレーンがざっと 20 台。

既存の高層ビルで視界の遮られているものも多くあるので、ここ一帯だけでも、おそらく 40 台くらいが林立していると思われます。



「通りという通りで」という表現が大袈裟でないほどに、高層・低層問わず、建設ラッシュとなっています。

それを 10 年 20 年単位で、継続的に開発していっています。

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

さらに言えば、シティのエリアから東西に行った周辺の、カナリー・ワーフ、ナイン・エルムズ、といったエリアでも、同様に大きな開発が進んでいます。

全体では、何十兆円というような単位だろうと思われます。

金融センターからみた今回の騒動

イギリスの来歴を振り返ると、第 2 次世界大戦で帝国の資産を使い果たし、その後は、英国病で永らく苦しみ、サッチャリズムと金融ビッグバンで起死回生を図るも、ポンド危機で躓いて、統一通貨には参加せず（できず）、

それでも、EU 統合の路線を推し進め、通関効率を上げてコストを削減し、移民を入れて人件費を圧縮し、経営をスリム化して利益を叩き出し、リーマンショックを乗り越えて、欧州の金融ハブとなる構想が形になってきている、

というようなタイミングです。

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

ロンドンに拠点を置く金融機関は、EU 域内の各国へ許認可なく進出できる、という「パスポート」制度を背景に、

これからさらに一回り大きな形で、欧州の金融センターとして伸びていく、ということで「話がついている」ということなのでしょう。

つまりシティには…

うっかり EU 離脱になると「都合の悪い」人が「結構」いるわけです。

キャメロン首相が真顔で残留を訴えるのも伊達ではなく、エスタブリッシュメント層の中には、「ガス抜きのはずの国民投票がどうして際どい話になっているのか」と首相を責める向きもあるでしょう。

離脱派あたりも、当然、「誰がどれくらい金を突っ込んでいるか」、分かった上でやっている、というわけです。

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

生活する人々の雰囲気

投票直前の日曜日、シティの中心部では、車両の通行を全部封鎖して、朝からマラソン大会をやっていました。

グローバルなエリートの世界は、今も昔もコスモポリタンです。このイベントでは、様々なルーツを持つ、見た目も多様な人たちが、一緒に走って一緒に汗を流す、というわけです。

今回の滞在では、公共機関のワーカー、空港職員、スーパー・コンビニの店員など、ほぼ純粋な白人ではない人で占められていました。

開発エリアで建築作業をやっているのも、おそらく移民労働者なのでしょう。高層ビルも、安く建つのに越したことはありません。

一方で、郊外のエリアには、うらぶれた中途半端な住宅街も広大に広がっています。二極化の下の方へいくイギリス人も多いはずです。

そういうエリアには、貧しい層の移民が入ってくることになるでしょう。

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

生活慣習の違いなどから、日常生活でトラブルが生じても、普段は、ご近所との個々の問題で収まっているだろうと思います。

しかし、「有権者の何割かは負け組のイギリス人である」という点を狙って、それを政局のカードにしたい政治家や団体が、ムーブメントを仕掛けることがあれば、今回のように盛り上がる、ということではないかと感じます。

「連帯」や「寛容さ」で押し切ろうとするかのようなメディア

こうした中で、ネットやテレビでは、内実の異なる上流・下流の 2 つのグローバル化が、混ぜこぜに語られています。

今回、結局見かけたのは、残留派のスタッフ数名だけでした。

下町の落書きには、EU からの離脱を支持する前ロンドン市長ボリス・ジョンソンと、ドナルド・トランプがキスをしている、というものもありました。

ネットのメディアでも、このところ、残留派は良識的で、離脱派は憎悪を煽っている、という雰囲気の宣伝が増えてきています。

「二極化」や「多文化共存」、「金融経済」、「複雑で分かりにくい EU システム」、から生じる社会の問題に、不満が沸き起こるのを、政治家やメディアは「人権」、「連帯」や「寛容さ」という、反論できないお題目で押さえているようにも見えます。

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

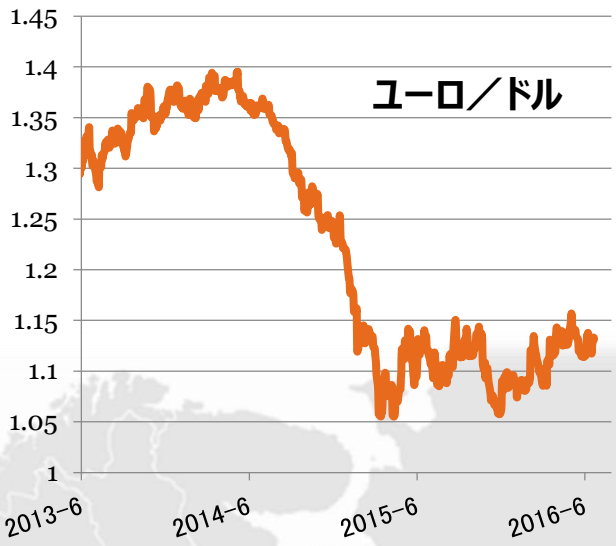
このように押さえつければ押さえつけるほど、グローバル化したエリート層への、草の根の反発感情は、今後も高まっていくだろうと思われます。

妙に秩序立った通貨安

他方では、2012 年の危機に際して、欧州中央銀行（ECB）のドラギ総裁が「ユーロを守るために何でもする用意ある」と約束したことも忘れてはいけません。

ユーロを守るためには、EU が分裂・破綻へ直行するのを回避しつつ、一旦は、ユーロ安を維持して、株高にして、景気を回復させた後、成長に合わせて利上げをしていく、というようなシナリオになります。

利下げ、量的緩和には限度があり、直接的に通貨安操作をすると、批判されることになります。



非常にシンプルに考えると、国レベルでは懸念材料があり、企業レベルでは期待が大きい、というのが、通貨安・株高につながります。

そんな中、もちろん偶然の産物だとは思いますが、EU の様々な危機が取り沙汰され、結果として通貨ユーロは、今のところ秩序ある通貨安を維持しています。

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

欧州の主力商品？

今回の国民投票は、議員の殺害事件を期に流れが変わりました。現地の人の「本気度」が分かるとされるブックメーカー（賭け業者）の数字で、残留に大きく振れていると報じられています。

投票結果は、最後の最後までどうなるか分かりませんが、このまま行くと残留となる、という観測が広がっています。

EU は問題を抱えたまま、どこまで走り続けるのか。欧州経済は、いつまで危機の淵に居続けるのか。

しかし、よくよく考えると、「地域統合」や「寛容さ」だけでなく、エコ、表現の自由、LGBT、人権主義、果ては「幸福度」に至るまで、世界のマスメディアで盛んに取り上げられる（＝世界で広くシェアを持つ）知的ファッションは、現在でもまだ多くが、Made in 欧州 となっています。

このあたりの巧みさを考えると、仮に今回「離脱」という結果になったとしても、それはそれで、どうにでもなるのではないか、という気がしないでもありません。

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

【 レポートをダウンロードいただいた皆様へ 】

お得なお知らせ

Global グループである Global Investment Academy にて、日本人に質の高い海外投資情報を提供するため、セミナー動画やイーブックを販売しており、多くのお客様からご好評を頂いております。

資産構築のバイブルとして、ぜひともご活用ください。

【GIA 通信】

我々は日本人が世界と比べて欠けていると思われるファイナンシャルリテラシーを高め、安定した収入源を海外投資で築き上げる為「お金」「投資」「ビジネス」「マインドセット」などの必要な情報を毎週 1 回、メールマガジンにてみなさまにお届けしていきます。

→ http://www.academy-global-investment.com/opt2/?id=eureport

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

【コンテンツラインナップ】

セミナー動画

・ベトナム・インドネシア・ミャンマー投資不動産発掘セミナー（2016 年 3 月開催）

・海外資産相続対策セミナー（2016 年 2 月開催）

・ゴールド資産運用セミナー（2015 年 11 月開催）

・HSBC フル活用セミナー（2015 年 2 月開催）

イーブック

・資産構築ガイド - ゼロから億の資産を築きあげる方法

・フィリピン・イーブック

・マレーシア・イーブック

・コマーシャル投資

・パーペチュアル・トラベラーという生き方

・賢者の海外不動産投資

・プライベートバンク 究極の活用法

・日本脱出完全マニュアル

・儲けの極意 - 中国ビジネス編

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.

DVD

・投資研修会イーラーニング

・修羅場を乗り越える投資学セミナー

ｅｔｃ

コンテンツの詳細はこちら

https://academy-global-investment.com/seminar/close/

©2016 EURO ASSETS ADVISORY SH.A.